

平成26年度第2回 かわさき市民アンケート 概要版

調査の概要

調査設計等	<ul style="list-style-type: none"> ◆調査対象 川崎市在住の満20歳以上の男女個人 ◆標本数 3,000標本 ◆標本抽出 住民基本台帳からの層化二段無作為抽出 	<ul style="list-style-type: none"> ◆調査方法 郵送法 ◆調査期間 平成26年10月30日(木)～11月21日(金) ◆有効回収数 1,345標本 ◆有効回収率 44.8%
調査項目	<ul style="list-style-type: none"> 1 定住状況について 2 生活環境の評価について 3 関心ごとと行動範囲について 4 市政に対する評価と要望について 	<ul style="list-style-type: none"> 5 市政情報について 6 がん検診について 7 市民の防災意識について

※基数となるべき実数（n）は、設問に対する回答者数である。また、本文中の「百分率」は小数点第2位を四捨五入しているため、あるいは複数回答のため、数値の合計が100にならない場合がある。

調査回答者の属性

1 性別

	基数（人）	構成比（%）
1 男性	559	41.6
2 女性	773	57.5
（無回答）	13	1.0
合計	1,345	100.0

2 居住区別

	基数（人）	構成比（%）
1 川崎区	171	12.7
2 幸区	155	11.5
3 中原区	227	16.9
4 高津区	211	15.7
5 宮前区	216	16.1
6 多摩区	193	14.3
7 麻生区	164	12.2
（無回答）	8	0.6
合計	1,345	100.0

3 性／年代別

	全 体		男 性		女 性		性別無回答	
	基数（人）	構成比（%）	基数（人）	構成比（%）	基数（人）	構成比（%）	基数（人）	構成比（%）
1 20歳代	120	8.9	48	8.6	72	9.3	-	-
2 30歳代	243	18.1	95	17.0	148	19.1	-	-
3 40歳代	285	21.2	103	18.4	182	23.5	-	-
4 50歳代	245	18.2	115	20.6	130	16.8	-	-
5 60歳代	254	18.9	110	19.7	143	18.5	1	7.7
6 70歳以上	188	14.0	88	15.7	98	12.7	2	15.4
（無回答）	10	0.7	-	-	-	-	10	76.9
合計	1,345	100.0	559	100.0	773	100.0	13	100.0

1 定住状況について

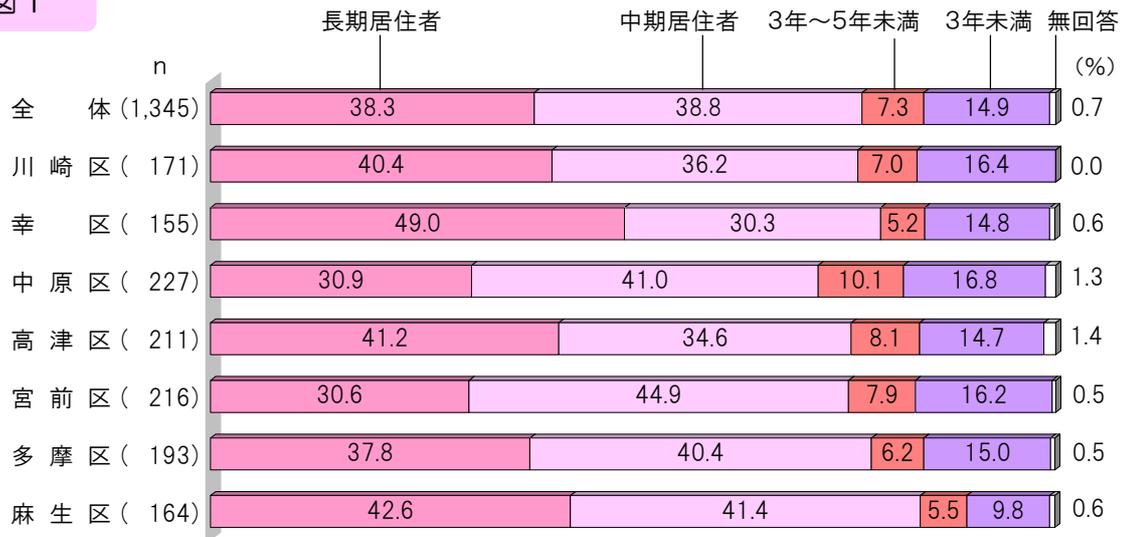
1 居住年数

居住区別でみると、＜長期居住者*¹＞は、幸区(49.0%)で最も高く、次いで、麻生区(42.6%)、高津区(41.2%)の順となっています。＜中期居住者*²＞は、宮前区(44.9%)で最も高く、次いで、麻生区(41.4%)、中原区(41.0%)の順となっており、「3年未満」は、中原区(16.8%)で最も高くなっています。

※1 長期居住者：居住年数が20年以上

※2 中期居住者：居住年数が5年以上20年未満

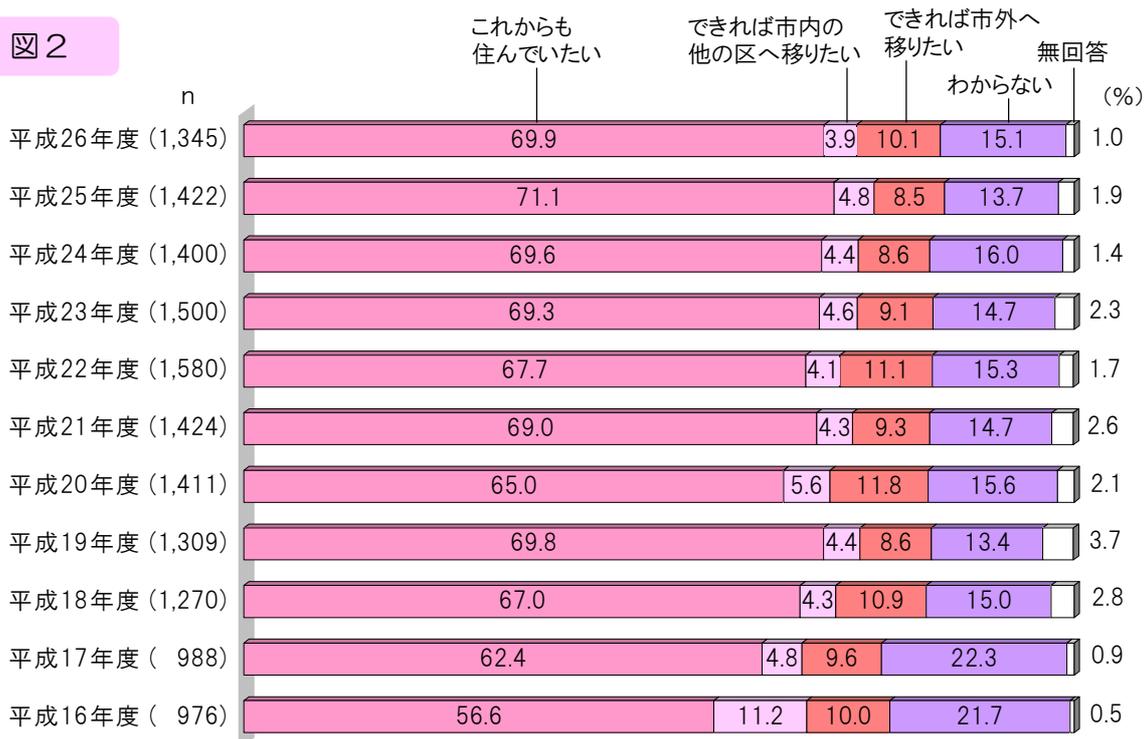
図1



2 定住意向

「これからも住んでいたい」は69.9%となっており、10年前（平成16年度）と比較して13.3ポイント増加しています。

図2

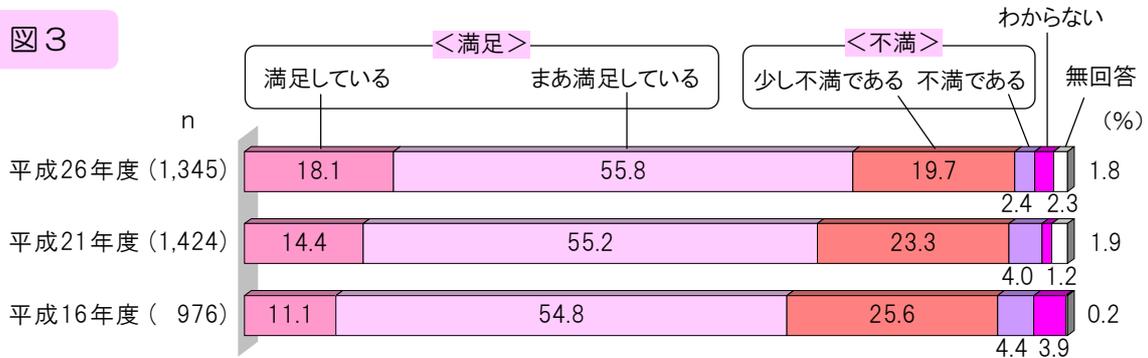


2 生活環境の評価について

1 総合的な生活環境の満足度

「満足している」(18.1%)と「まあ満足している」(55.8%)を合わせた<満足>は73.9%となっており、5年前(平成21年度)と比較して4.3ポイント、10年前(平成16年度)と比較して8.0ポイント増加しています。

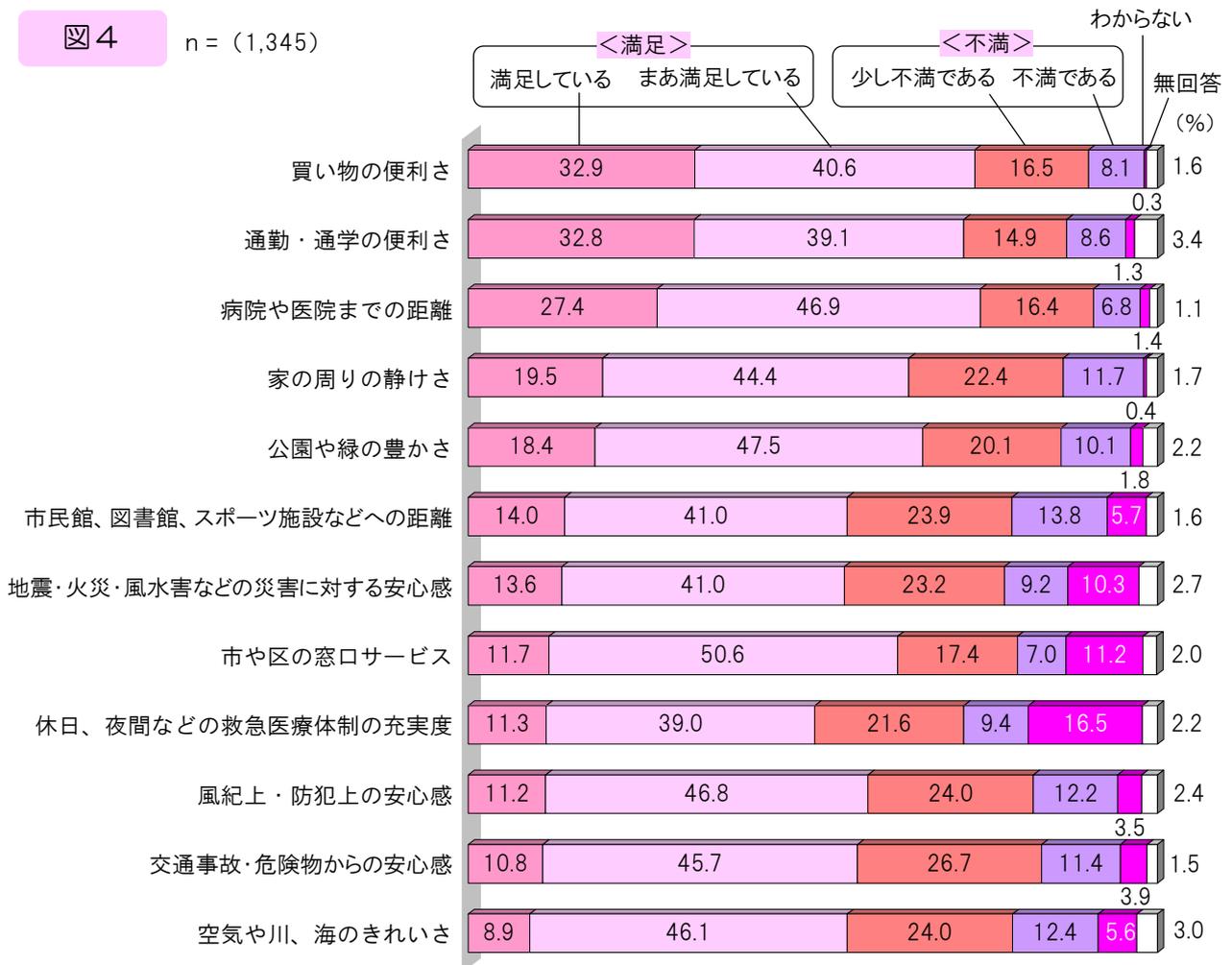
図3



2 生活環境の満足度

「満足している」と「まあ満足している」を合わせた<満足>は、「病院や医院までの距離」(74.3%)、「買い物の便利さ」(73.5%)、「通勤・通学の便利さ」(71.9%)で7割を超えています。

図4



3 関心ごとと行動範囲について

1 関心を持っていること

「健康」(67.8%)が最も高く、次いで「老後の生活」(50.9%)、「家族」(49.8%)、「仕事(家事や勉強も含む)」(45.3%)、「お金・財産」(43.3%)、「趣味・娯楽」(39.0%)の順となっています。

過去5年の推移をみると、上位4項目は「健康」、「老後の生活」、「家族」、「仕事(家事や勉強も含む)」の順で、変動はみられません。

図5 (複数回答) n = (1,345)

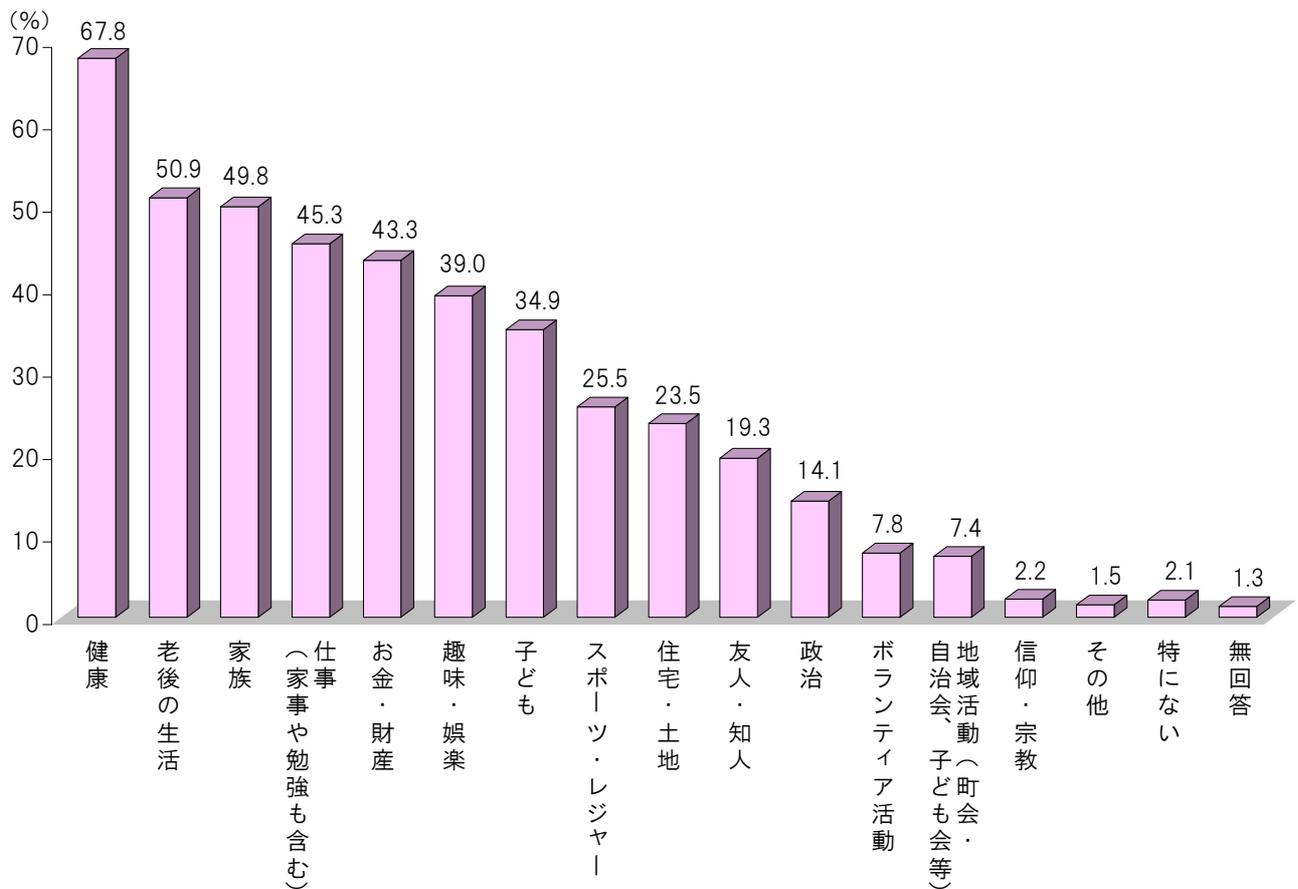


表1 過去5年経年比較(上位6項目)

年度	順位					
	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位	第6位
平成21年度	健康 70.8	老後の生活 51.6	家族 49.7	仕事(家事や勉強も含む) 43.7	趣味・娯楽 41.4	お金・財産 41.2
平成22年度	健康 66.8	老後の生活 49.5	家族 48.2	仕事(家事や勉強も含む) 43.6	お金・財産 41.6	趣味・娯楽 39.7
平成23年度	健康 71.5	老後の生活 53.4	家族 47.9	仕事(家事や勉強も含む) 41.5	お金・財産 40.3	趣味・娯楽 39.1
平成24年度	健康 66.5	老後の生活 52.6	家族 48.4	仕事(家事や勉強も含む) 44.1	お金・財産 41.4	趣味・娯楽 41.1
平成25年度	健康 67.2	老後の生活 52.4	家族 46.2	仕事(家事や勉強も含む) 41.8	趣味・娯楽 40.3	お金・財産 39.2
平成26年度	健康 67.8	老後の生活 50.9	家族 49.8	仕事(家事や勉強も含む) 45.3	お金・財産 43.3	趣味・娯楽 39.0

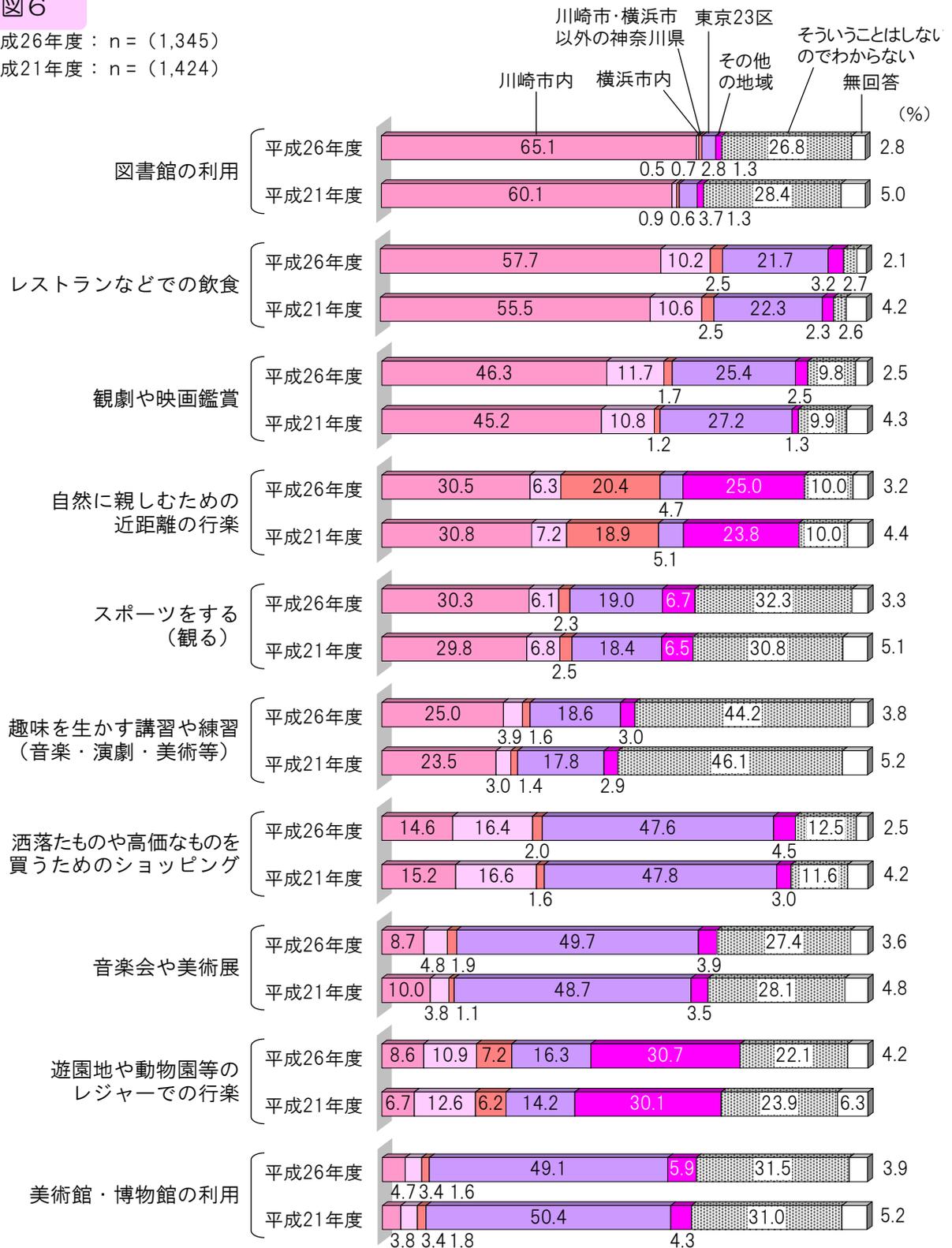
2 行楽・文化施設の利用・ショッピングの場所

『川崎市内』の利用率が最も高いのは「図書館の利用」(65.1%)で、次いで「レストランなどでの飲食」(57.7%)、「観劇や映画鑑賞」(46.3%)、「自然に親しむための近距離の行楽」(30.5%)、「スポーツをする(観る)」(30.3%)の順となっています。

5年前(平成21年度)と比較すると、「図書館の利用」で5.0ポイント増加しています。

図6

平成26年度：n=(1,345)
平成21年度：n=(1,424)



4 市政に対する評価と要望について

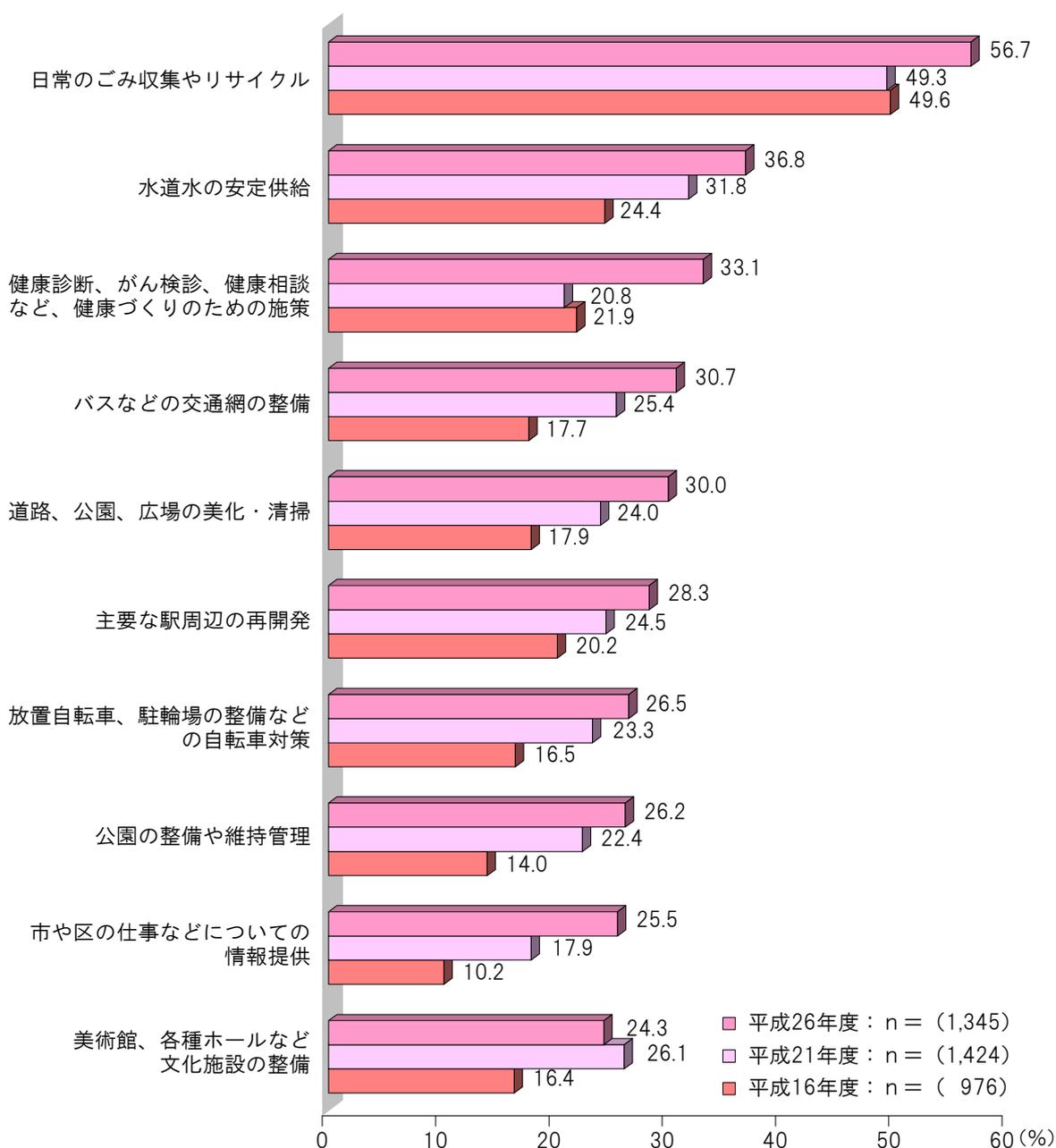
1 市政の仕事でよくやっていると思うこと

「日常のごみ収集やリサイクル」(56.7%)が最も高く、次いで「水道水の安定供給」(36.8%)、「健康診断、がん検診、健康相談など、健康づくりのための施策」(33.1%)、「バスなどの交通網の整備」(30.7%)、「道路、公園、広場の美化・清掃」(30.0%)の順となっています。

5年前(平成21年度)と比較すると、「健康診断、がん検診、健康相談など、健康づくりのための施策」で12.3ポイント、「市や区の仕事などについての情報提供」で7.6ポイント、「日常のごみ収集やリサイクル」で7.4ポイント増加しています。

10年前(平成16年度)と比較すると、「市や区の仕事などについての情報提供」で15.3ポイント、「バスなどの交通網の整備」で13.0ポイント、「水道水の安定供給」で12.4ポイント増加しています。

図7 (複数回答、上位10項目、平成26年度・平成21年度・平成16年度との比較)



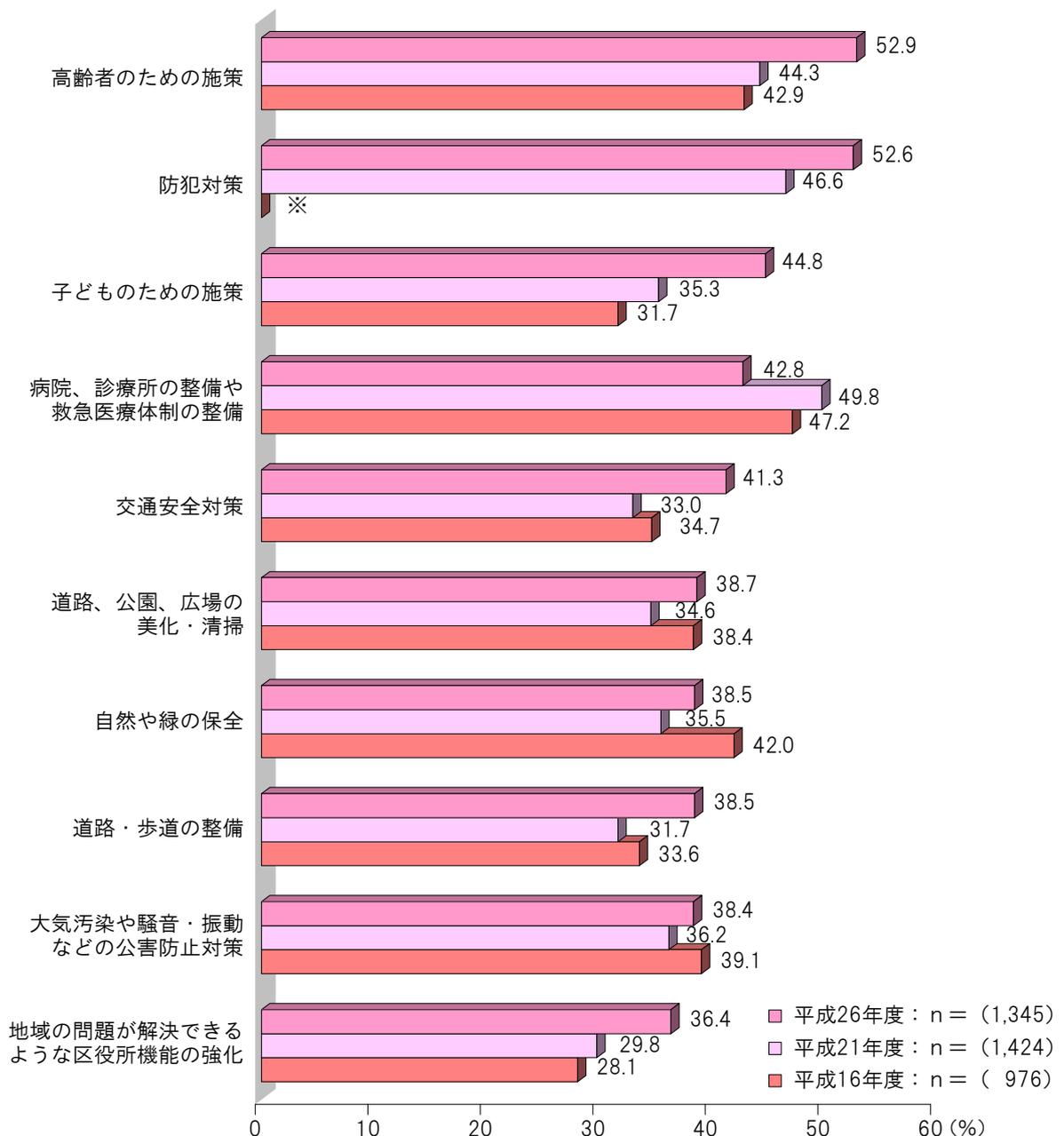
2 市政の仕事で今後特に力を入れてほしいこと

「高齢者のための施策」(52.9%)が最も高く、次いで「防犯対策」(52.6%)、「子どものための施策」(44.8%)、「病院、診療所の整備や救急医療体制の整備」(42.8%)、「交通安全対策」(41.3%)の順となっています。

5年前(平成21年度)と比較すると、「子どものための施策」で9.5ポイント、「高齢者のための施策」で8.6ポイント、「交通安全対策」で8.3ポイント増加しています。一方、「病院、診療所の整備や救急医療体制の整備」で7.0ポイント減少しています。

10年前(平成16年度)と比較すると、「子どものための施策」で13.1ポイント、「高齢者のための施策」で10.0ポイント、「地域の問題が解決できるような区役所機能の強化」で8.3ポイント増加しています。

図8 (複数回答、上位10項目、平成26年度・平成21年度・平成16年度との比較)



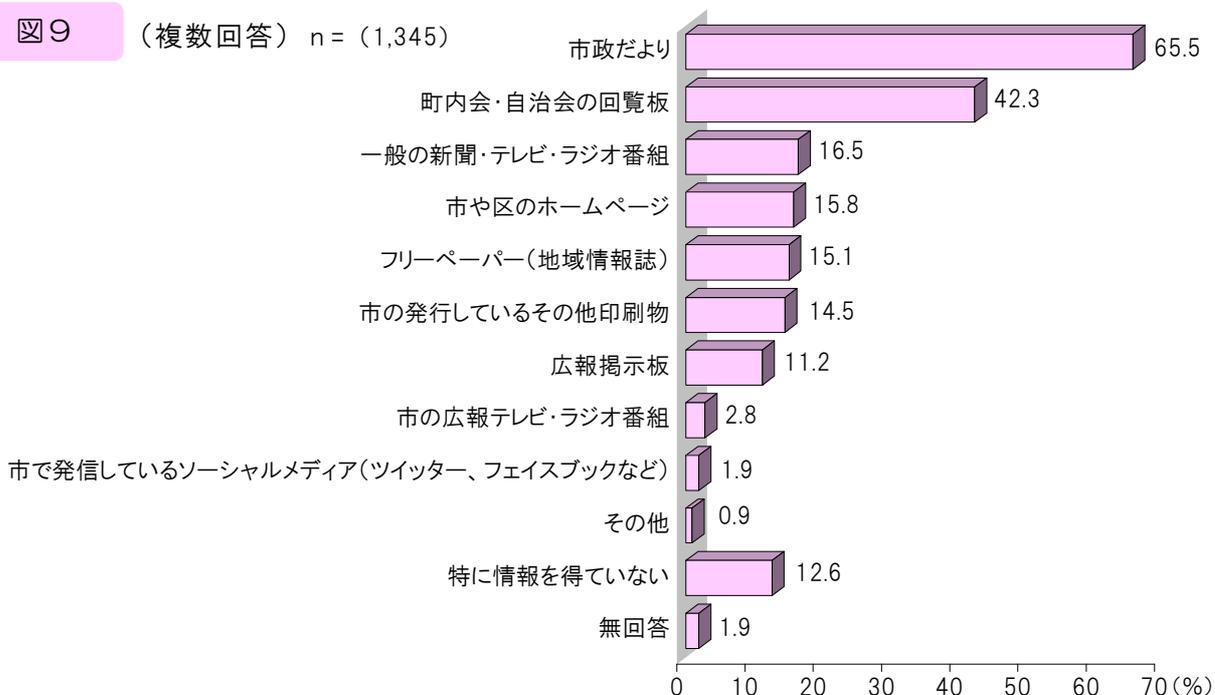
※平成16年調査では、「防犯対策」の選択肢はなかった。

5 市政情報について

1 川崎市の情報を得る方法

「市政だより」(65.5%)が最も高く、次いで「町内会・自治会の回覧板」(42.3%)、「一般の新聞・テレビ・ラジオ番組」(16.5%)、「市や区のホームページ」(15.8%)、「フリーペーパー(地域情報誌)」(15.1%)の順となっています。

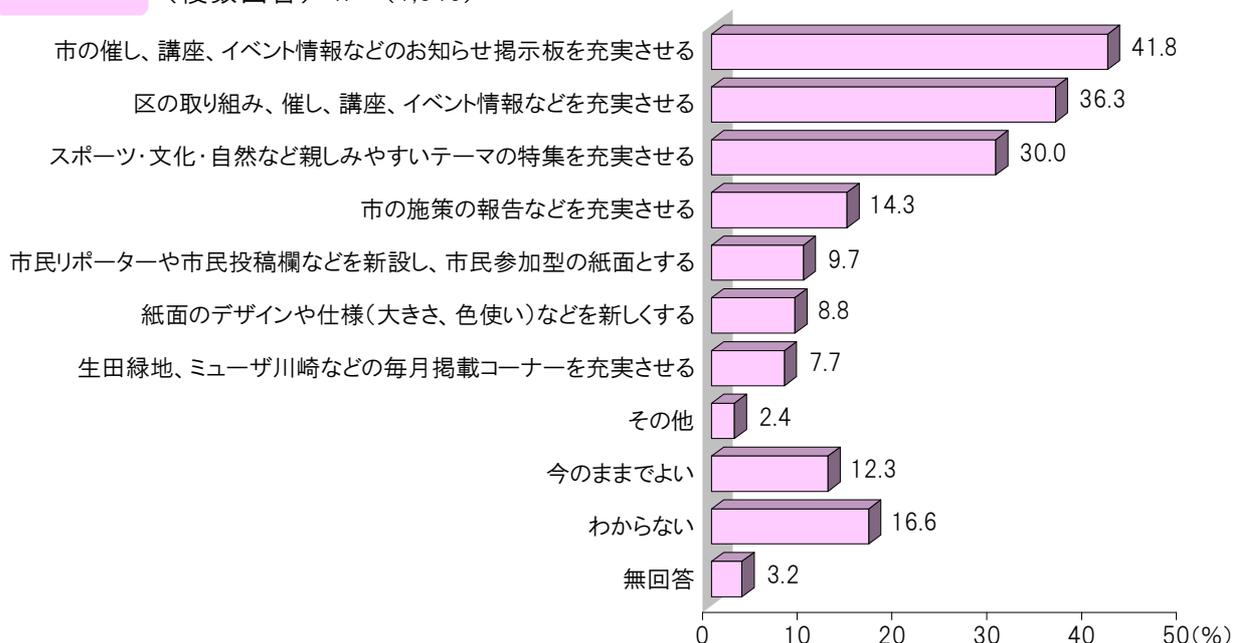
図9 (複数回答) n = (1,345)



2 市政だよりに対する要望

「市の催し、講座、イベント情報などのお知らせ掲示板を充実させる」(41.8%)が最も高く、次いで「区の取り組み、催し、講座、イベント情報などを充実させる」(36.3%)、「スポーツ・文化・自然など親しみやすいテーマの特集を充実させる」(30.0%)の順となっています。

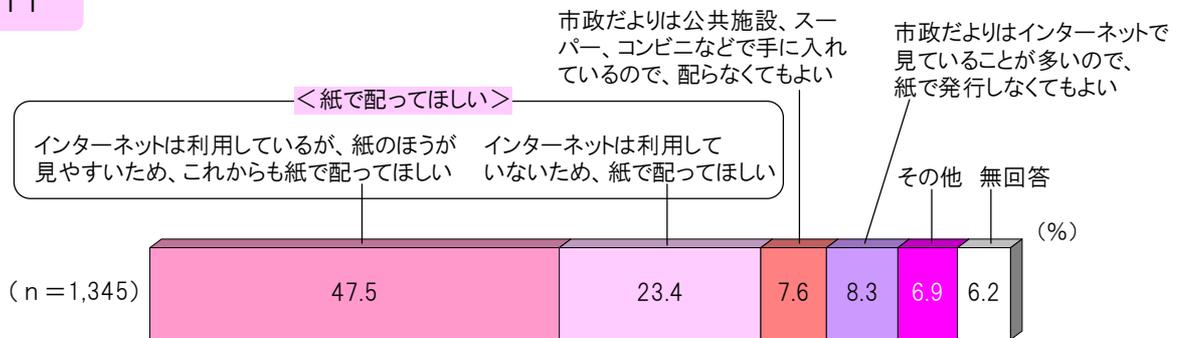
図10 (複数回答) n = (1,345)



3 今後の市政だよりの配布方法

「インターネットは利用しているが、紙のほうが見やすいため、これからも紙で配ってほしい」が47.5%、「インターネットは利用していないため、紙で配ってほしい」が23.4%となっており、この2つを合わせた「紙で配ってほしい」(70.9%)は7割を超えています。

図11



6 がん検診について

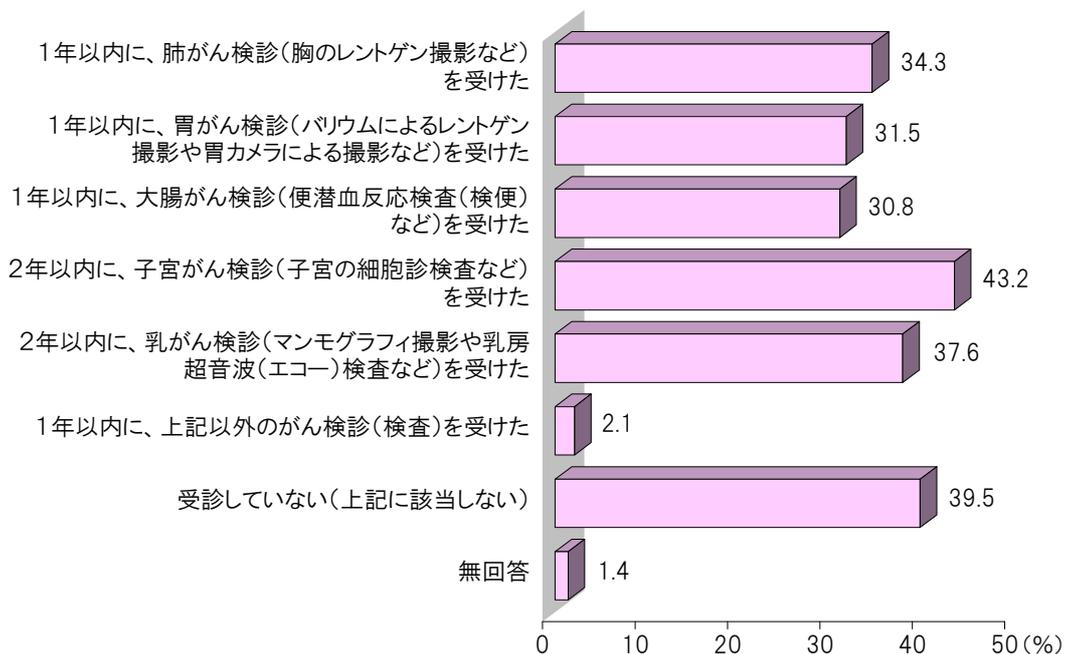
1 がん検診の受診状況

「1年以内に、肺がん検診を受けた」が34.3%、「1年以内に、胃がん検診を受けた」が31.5%、「1年以内に、大腸がん検診を受けた」が30.8%となっています。

また、女性対象のがん検診では、「2年以内に、子宮がん検診を受けた」が43.2%、「2年以内に、乳がん検診を受けた」が37.6%となっています。

図12 (複数回答) n = (1,345)

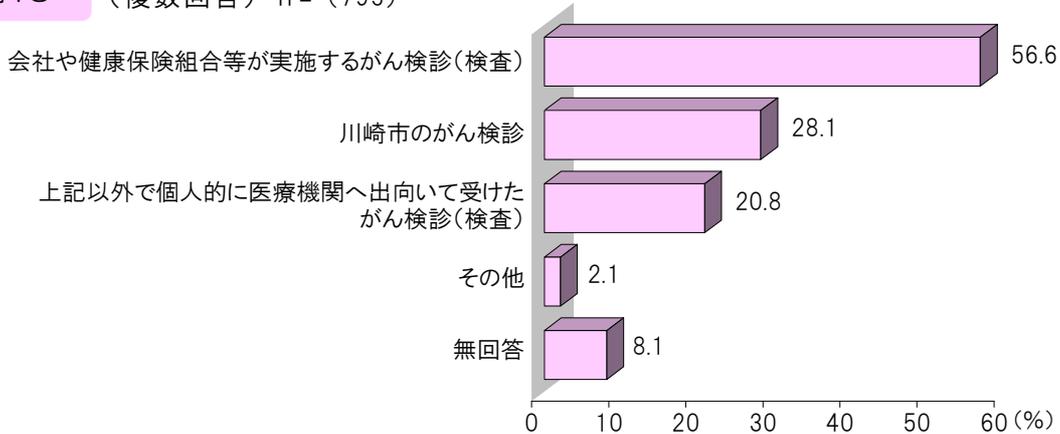
ただし、「子宮がん検診」と「乳がん検診」は女性に占める割合を示す。n = (773)



2 がん検診を受診した方法

「会社や健康保険組合等が実施するがん検診（検査）」（56.6%）が最も高く、次いで「川崎市のがん検診」（28.1%）、「上記以外で個人的に医療機関へ出向いて受けたがん検診（検査）」（20.8%）の順となっています。

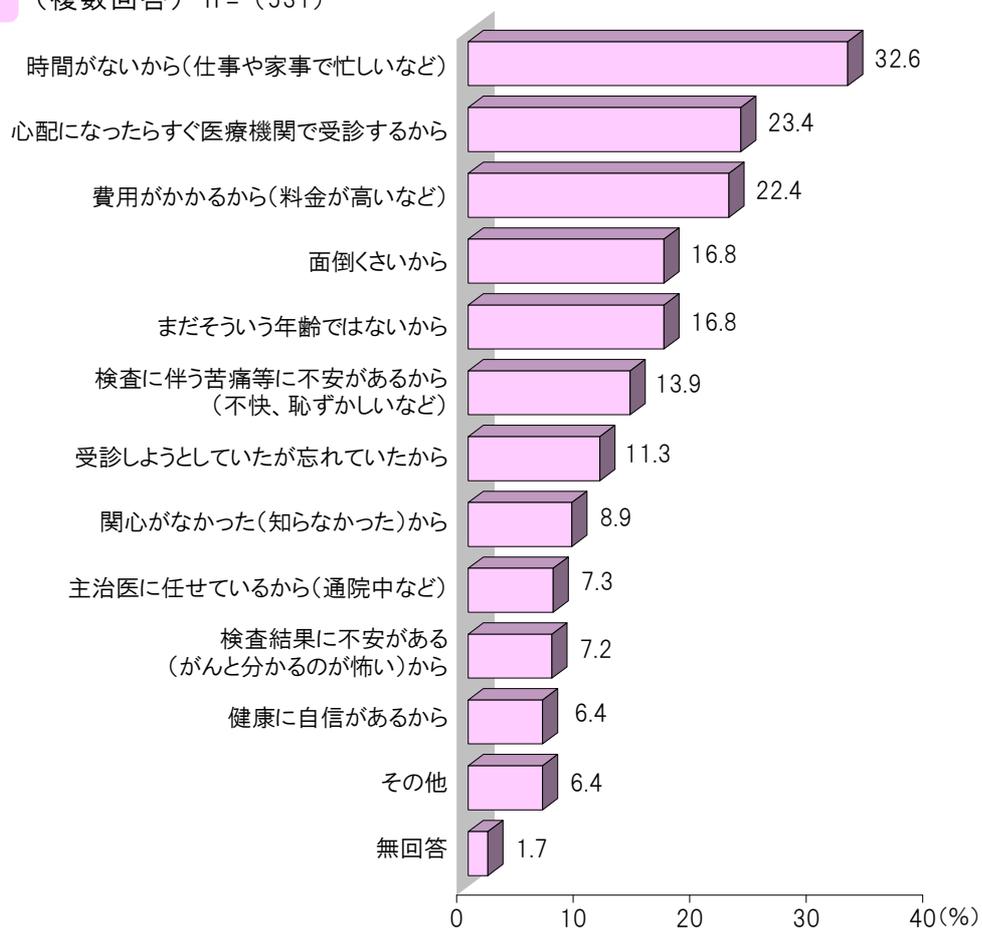
図13 （複数回答） n = (795)



3 がん検診を受診していない理由

「時間がないから（仕事や家事で忙しいなど）」（32.6%）が最も高く、次いで「心配になったらすぐ医療機関で受診するから」（23.4%）、「費用がかかるから（料金が安いなど）」（22.4%）の順となっています。

図14 （複数回答） n = (531)



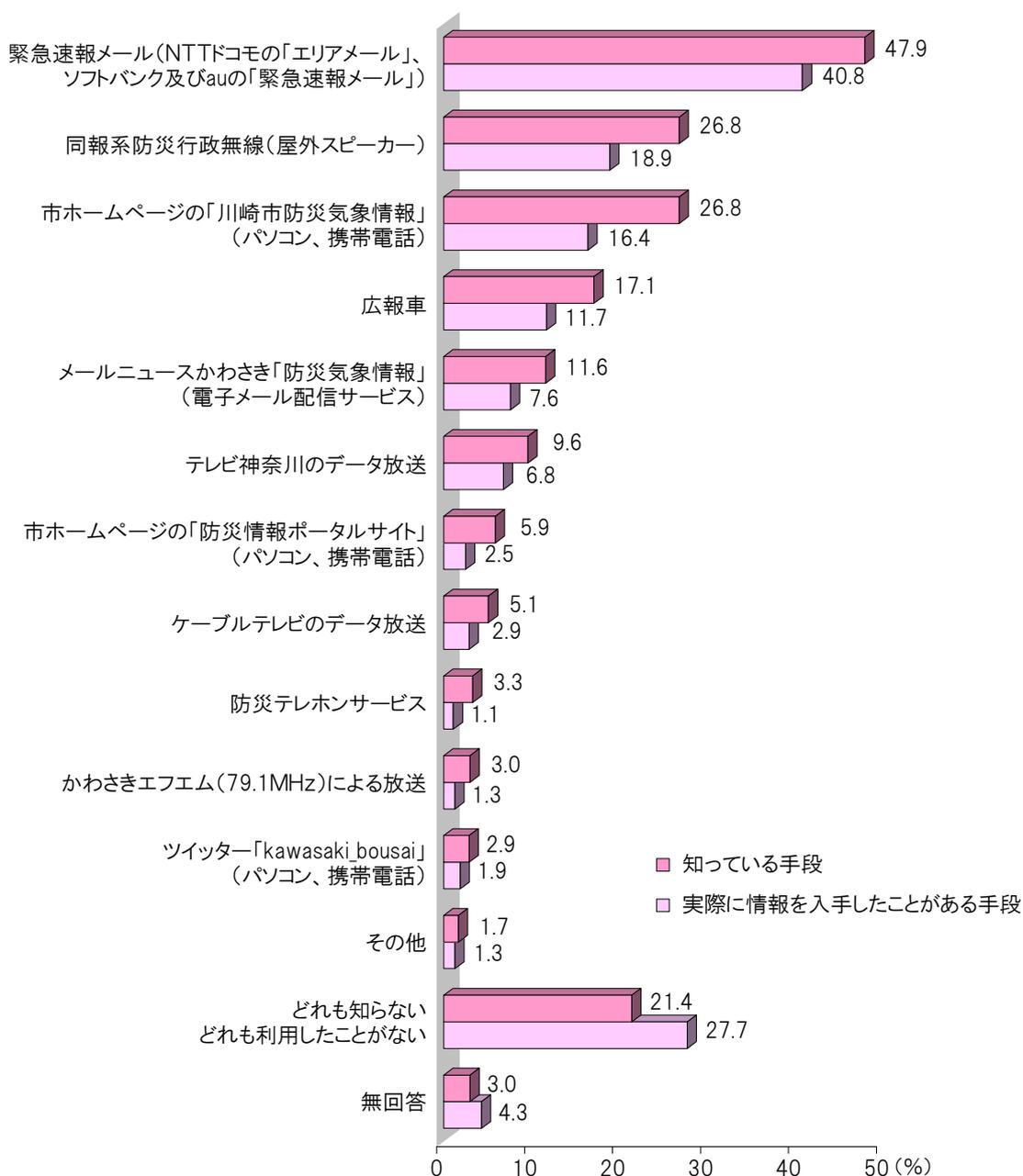
7 市民の防災意識について

1 川崎市の災害情報の入手手段

知っている手段は、「緊急速報メール（NTTドコモの『エリアメール』、ソフトバンク及びauの『緊急速報メール』）」（47.9%）が最も高く、次いで「同報系防災行政無線（屋外スピーカー）」と「市ホームページの『川崎市防災気象情報』（パソコン、携帯電話）」（ともに26.8%）の順となっています。

実際に情報を入手したことがある手段は、「緊急速報メール（NTTドコモの『エリアメール』、ソフトバンク及びauの『緊急速報メール』）」（40.8%）が最も高く、次いで「同報系防災行政無線（屋外スピーカー）」（18.9%）、「市ホームページの『川崎市防災気象情報』（パソコン、携帯電話）」（16.4%）の順となっています。

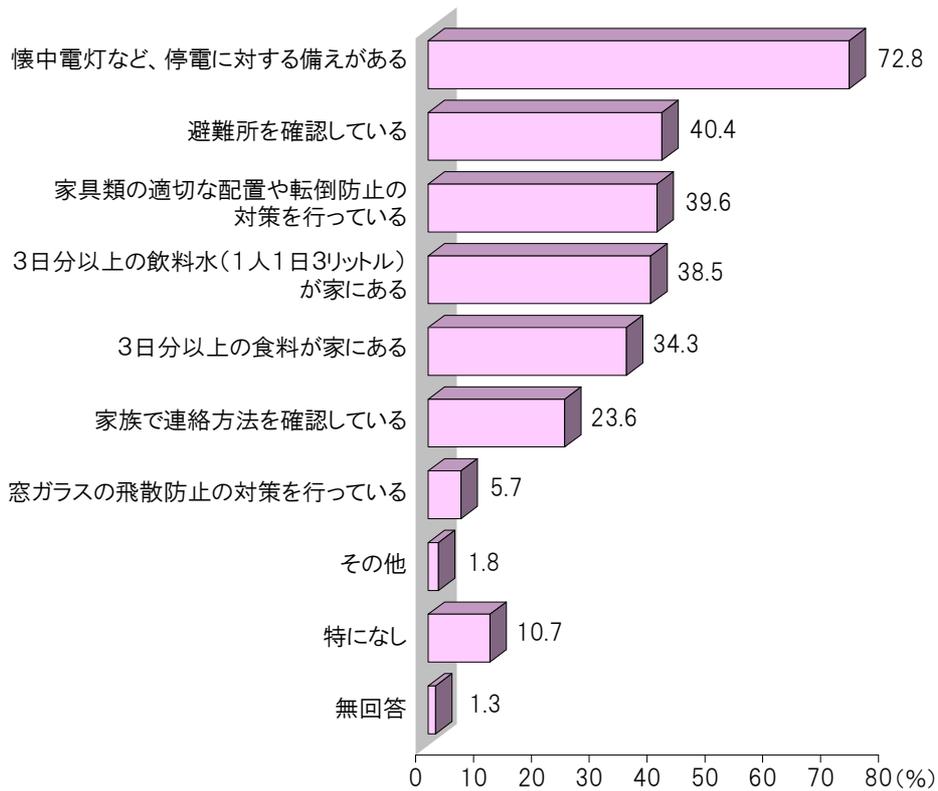
図15 （複数回答） n = (1,345)



2 防災に関する家庭内での取組

「懐中電灯など、停電に対する備えがある」(72.8%)が最も高く、次いで「避難所を確認している」(40.4%)、「家具類の適切な配置や転倒防止の対策を行っている」(39.6%)、「3日分以上の飲料水(1人1日3リットル)が家にある」(38.5%)、「3日分以上の食料が家にある」(34.3%)の順となっています。

図16 (複数回答) n = (1,345)



平成26年度第2回かわさき市民アンケート概要版

平成27年2月

発行 川崎市総務局秘書部市民の声担当

〒210-8577

川崎市川崎区宮本町1番地

電話 044-200-2291 (直通)

FAX 044-200-3919